

研修報告書 No 43

研修施設: 本山町立国保嶺北中央病院

土佐山へき地診療所

東京大学医学部附属病院 久保貴俊

この度、一ヶ月という短い期間ではありましたが高知県で臨床研修を行わせていただきました。これまで都心の大学病院でしか臨床研修を行ってこなかった私にとって、この一ヶ月は様々な得難い経験をつませていただいた一ヶ月でした。その感謝の意も含め、今回の研修について報告させていただきます。

この研修期間では主に僻地の中核病院を拠点とし、週に数度、診療所や往診に出張するという生活を送っていました。上級医の指導下で中核病院では入院業務と一部外来業務を、訪問診療や診療所では診察を行いました。様々な患者様に会い、様々な疾患を診させていただきましたが、最も印象に残っているのは医療者の医療への姿勢です。ただ疾患だけを診るだけではなく、実生活や家庭・地域環境まで考慮に入れて実現可能な医療を行っていく。全人的医療により、地域社会に根付いた、地域に必要とされる医療を実践している姿が何より印象的でした。

一方でこの研修において私が一番困難に感じたことは、医療資源の限界でした。都心では当たり前のように行われている医療が、その是非はおいておくとして、限られた人的・物的資源の中ではなかなか実践することができない。実際の困難さは、一ヶ月しか研修していない私の想像をはるかに上回るものなのだと思います。

しかしながら、ただ限られた医療資源に不平不満を言うのではなく、それを最大限に生かすためにどうすればいいのか。スタッフ個々人、病院、地域、そして県全体で真剣に取り組んでいることも感じました。僻地医療のデメリットを解消するために、地域と病院、病院間の連携が都心以上に発達している姿は、私のこれまで有していた地域医療のイメージを一新するものでした。

その点で今回の研修で学んだことは、実際の地域医療の在り方だと言うことができます。耳学問から想像していたイメージとの一致と相違。それを知ることができたのはよかったです。

加えて、都心の診療ではおろそかになりがちな、**Patient-based medicine** に触れ、自らもその一員として実践に携われたことは何より得難い経験でした。日常生活を含めて、患者様にとって一番良い医療とは何かを常に見つけていこうとする、本質的な医療——医療者が患者様を尊重し、患者様も医療者を信頼する、人間的医療を行っていくことの重要性。高知県での研修で得たものは、医療者としての姿勢でした。今回学んだことを今後の診療に活かしていきたいと思っています。

また、短い期間でもできるだけ地域医療に触れられるよう、楽しい研修を行えるように、様々な方々にご配慮いただいたことを、切々と感じております。お忙しい中にもかかわらず、研修を受け入れてくださった医療機関の皆様、そして様々な調整を行ってくださった医療再生機構の皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。後輩にも高知県での地域研修を、自信を持って勧められると思います。

いつかまた、高知県で医療を行いたい。そう感じた一ヶ月でした。